



共生社会の担い手育成を目指す教育プログラムの開発

—車いすまち歩きの実践を事例として—

愛媛大学教育学部 井上昌善 PC: inoue.masayoshi.xk@ehime-u.ac.jp
井上昌善研究室3回生岩崎颯太 大石有美香 増田優人 村田朋樹 和田哲太

01 目的・目標

目的：共生社会の実現

目標：共生社会の創り手（=コミュニティ・オーガナイザー）としての資質を高めることを目指すプログラムを展開する。

コミュニティ・オーガナイズングとは

仲間を集め、その輪を広げ、多くの人々が共に行動することで社会変化を起こすこと。

- 1 共に行動を起こすためのストーリーを語るパブリック・ナラティブ
- 2 活動の基盤となる人との強い関係をつくる関係構築
- 3 みんなの力が発揮できるようにするチーム構築
- 4 人々のもつものを創造的に生かして変化を起こす戦略づくり
- 5 たくさんの人と行動し、効果を測定するアクション

パブリック・ナラティブとは

3つのストーリーをつなげたもの

- ・私のストーリー
困難を抱える当事者の想いや価値観を伝える。
- ・私たちのストーリー
一体感を生むために必要な共有する価値観を示す。
- ・行動のストーリー
課題に対して行動する理由を示す。

02 活動内容

① DET (障害平等研修)



<内容>

障害とは何かについて、イラストや動画を活用して考えを深める。

<成果>

- ・障害についての考えを深めることができた。
- ・共生社会の実現に向けて、課題解決のための自分自身の行動について考えることができた。

② 車椅子乗車体験



<内容>

車いすに乗り、学内をまわることにより、バリアフリーの在り方について考えた。

<成果>

共生社会の実現のために、大学内で整備されているバリアフリーの工夫や課題に気づき、バリアフリーの在り方について考えることができた。

③ 車いすまち歩きイベント

<内容>

車いすユーザーや子どもなど多様な人とまち歩きを行ったり、交流を深めたりした。

<成果>

車いすを自分自身が使うことによって、普段とは違った視点で街を歩くことができ、街の良さや課題について新たな発見をすることができた。



④ 振り返り

<内容>

今までの活動を振り返り、印象に残ったことや課題について話し合った。

<成果>

車いすイベントを通じて印象に残ったことを伝え合い、ソフト面やハード面の双方向から、共生社会実現のために必要なことについて考えることができた。



楽しくまち歩きをするために、ミッションビンゴを制作



<車いすユーザーにとって難しいミッション>

- ・昼食をみんなで食べる。
- ・扉を1人で開ける。 など

<街の良さを見つけるためのミッション>

- ・押しスポットで写真を撮る。

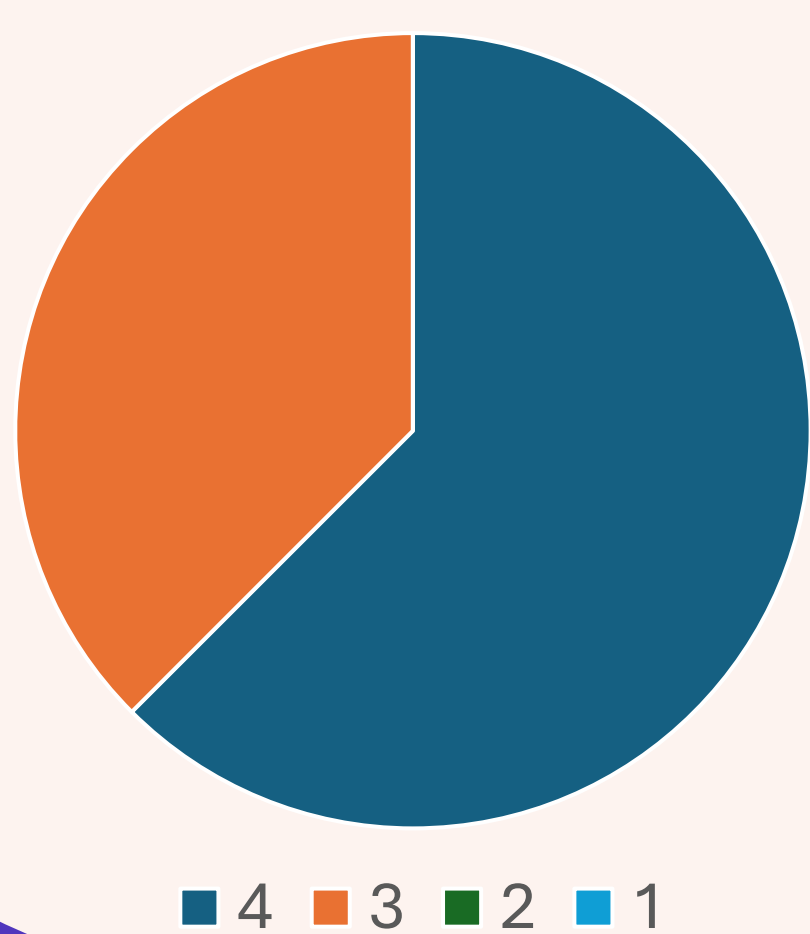
<共生社会実現のためのミッション>

- ・課題を見つける。



03 成果と課題

本イベントの満足度



・車椅子ユーザーの方とお話しや街歩きをすることで今まで気づかなかった街の良さや課題点に気がつくことができたから。(大学生)

・普段は中々、行かない所に行って「このスロープは細くて下りるのが少し怖いだろうとか道のガタガタがもう少し少なかったら体にくる振動が少ないのかな?」と思いました。(車椅子ユーザー)

- 1 共に行動を起こすためのストーリーを語るパブリック・ナラティブ
(成果) 様々な人との交流を通して、他者理解を深めることができた。
- 2 活動の基盤となる人との強い関係をつくる関係構築
(成果) 活動の基盤となる人との強い関係をつくることができた。
- 3 みんなの力が発揮できるようにするチーム構築
(成果) グループ分けを工夫することで、異なる視点の考えを共有できた。
(課題) アイスブレイクの時間が少なく、お互いのことを知る活動が不十分だった。
- 4 人々のもつものを創造的に生かして変化を起こす戦略づくり
(成果) 車いすユーザーの思いや課題を理解し、共生社会の実現というゴールに向けて一歩を踏み出すことができた。
(課題) 共生社会を実現する「戦略」までは十分に考えることができなかった。
- 5 たくさんの人と行動し、効果を測定するアクション
(成果) 様々な世代の方と関わることができた。
(課題) ・一般の方々と広く交流したとはいえ、「たくさんの人と行動」することが十分にできなかった。
・「戦略」をつくることができなかったため「効果を測定するアクション」も行えなかった。

実際の様子についてはこちらもご参照ください!

<https://www.youtube.com/watch?v=Z1nHorC4dJA>



(本実践は、愛媛大学研究活性化事業(若手研究者リサーチユニット創成支援:研究代表者井上昌善「コミュニティ・オーガナイザー育成のための連携体制モデルの構築—社会的課題解決を目指す教育プログラムの開発と実践を通して—」2024年~2026年)の助成を受けて取り組んだものです。)